

2015年度学院留学 研究成果概要

種 別：学院留学（短期）
所属・職・氏名：教育学部・教授 井上 久夫
研究課題：ナサニエル・ホーソーンの世界研究
留学期間：2015年8月27日～2016年3月10日
留学先： アメリカ合衆国・マサチューセッツ州アマースト
マサチューセッツ大学 アマースト校

研究成果概要（日本語（全角）の場合は3,000字（A4、2ページ）程度）

留学の目的は三つあった。一つは、19世紀のアメリカ人作家ナサニエル・ホーソーンが *The Scarlet Letter* の序文 “The Custom-House” で用いた ‘neutral territory’ 「ニュートラル・テリトリー」（「間」〈あわい〉）ということばの持つ意味の広さと深さを探ることであり、もう一つは、ホーソーンの小説およびエッセイに登場する人物たちの「変身」に注目し、彼らを変身させたものは何かをつきとめ、作家の人間観、宗教観、世界観の一端を浮かび上がらせることであり、いま一つは、ホーソーンの小説と思考に影響を与えたに違いないマサチューセッツの風土に直接触れることによって作品を想像的ではなく感覚的に味わうことであった。

留学先の University of Massachusetts Amherst (UMass Amherst)において、まず、“Little Annie’s Ramble”を精緻に読むことから始めた。5歳の子どもの持つ不思議な能力、すなわち、夢と現実の世界を行き来することのできる感性、と「ニュートラル・テリトリー」の概念を結び合わせる事が可能かどうかを見極めるためであった。しかしながら、このエッセイを読んでいく途中、「手廻しオルガン弾き」が登場する場面に出くわしたとき、この作品を深く理解するためには、この場面を詳細に眺め、分析する以外に方法はないのではないかと直感した。そのために、エッセイの主人公アニーではなく、「手廻しオルガン弾き」に焦点を当てることを最優先に、その意味を探ることにした。留学前に予定していた研究課題に取り組む前に、19世紀前半のヨーロッパとアメリカにおける手廻しオルガン弾きが音楽や文学の中でどのように捉えられていたのかを探求することにしたのである。

手始めに、ウィルヘルム・ミュラーの詩にシューベルトが曲を付けた連作歌曲集 *Die Winterreise*（『冬の旅』）の24曲目（最終曲）“Der Leiermann”（「手廻しオルガン弾き」）に注目した。白と灰色と黒が織り成す場面は、ホーソーンのエッセイでオルガン弾きが登場する場面とは大きく異なるように見えるが、それぞれの手廻しオルガン弾きの内なる世界を覗くと、非常に似通っていることが分かってきた。“Der Leiermann”の世界を知ることによって、“Little Annie’s Ramble”という作品に新たな光を当てることのできる可能性が出てきたのである。

そのようなわけで、手廻しオルガン弾きを視座に据え、“Little Annie’s Ramble”に取り組むことにした。2016年度に、研究成果の一つとして論文を公表する予定である。

ところで、19世紀のマサチューセッツの文学風土は、現在のそれとは大いに異なっていた。文人、知識人たちは、ドイツ文学、ドイツ音楽に対する関心が強く、小劇場やサロンにおいてそれらを楽しんでいた。ホーソーンはドイツ語にあまり関心を示さなかったようであるが、彼

の人的環境を考慮すると、ドイツの文学や音楽に、ある程度関心を示さざるをえなかったであろう。友人の一人であるロングフェローがウィルヘルム・ミューラーの詩を英語に翻訳していることなどを考えると、ホーソーンがミューラーの詩“Der Leiermann”を読んでいた可能性あるいはシューベルトの *Die Winterreise* を聴いていた可能性があるように思われる。

ホーソーン作品とドイツ文学作品との比較研究に関しては、数は少ないが以前から行われている。新しいところでは、たとえば、Robyn Schiffman が、*Nathaniel Hawthorne Review* 38 No. 1—Spring 2012 に“*Novalis and Hawthorne: A New Look at Hawthorne’s German Influences*”というタイトルの論文を書いている。しかしながら、ホーソーン作品とドイツの歌曲（リート）の関係についての研究は、私が知る限りでは、これまで行われていない。今後、このような研究が行われることになれば、ホーソーン作品解釈に新たな視点を提供することになるだろう。

留学前には、ホーソーン作品とドイツ歌曲、といった研究テーマなど思いもよらなかった。しかし、今回、visiting research scholar として小生を受け入れてくださった UMass Amherst の the Department of Languages, Literatures and Cultures の Chair であり、Comparative Literature 所属の William Moebius 教授との懇談、また彼への質問を通して、ホーソーン作品とドイツ歌曲という新たなテーマ、若しくは 19 世紀のマサチューセッツの文人や知識人たちに与えた影響という新たな課題が与えられた。この課題は小生にとっては途轍もなく大きく、どこから、どのように取り組みればよいのか、方向性さえ定まっていなかったのだが、それが与えられただけでも、大きな収穫であった。

留学中に 3 教授の講義を拝聴できたことも小生にとっては大きな収穫であった。一つは、Kerstin Mueller Dembling 教授が担当する German and Scandinavian Studies の授業 ‘Witches: Myth and Historical Reality’ である。作家ホーソーン先祖が関わった 1692 年の Salem Village における Witch Trial、そしてヨーロッパにおける Witchcraft, Witch Trial を学ぶ機会が与えられた。歴史、宗教、文化、経済など、さまざまな視点からのアプローチを通して、Witchcraft の現代的意味を探ろうとする講義であった。小説、演劇、映画、アニメなどを用いた講義で、興味深い教授法でもあった。もう一つは William Moebius 教授が担当する Comparative Literature の授業 ‘Myth, Folktales and Children’s Literature’ である。ホーソーンは、この分野に興味を持っていることは知られており、子どもに関する彼の作品を読む上で、非常に参考になる講義であった。いま一つは、Asian Languages and Literatures で開講された Stephen Miller 教授の日本文学の講義である。これまで、村上春樹の「蜚」、吉本ばなな「新婚さん」といった短篇を英語訳で読む機会がなかったのが、小生にとっては興味深いものであった。と同時に、今後の英語教育にどのように生かせるのかを考える良い機会となった。

UMass Amherst の教職員の方々から、数えきれないほどの便宜を図っていただいた。受講、研究室での質問、図書館および Teaching Commons の利用、学部メールボックス室、PC、コピー機の利用等々。受けることのみ多かりき、の小生であったが、貢献できたこともあるのでここで報告しておきたい。Yuki Yoshimura 教授と Dr. Sharon Domier 図書館員のお二人が担当する授業 ‘Extensive Reading in Japanese’ に、三度、読み聞かせの講師として招聘された。特に、三度目は、ビデオカンファレンスにより、UMass Amherst だけではなく、Smith College, Mt. Holyoke College へ中継する授業形式で朗読を聴いてもらうことになった。また、要請を受けて、UMass の録音室にて、朗読を録音する機会が与えられた。朗読は専門外の分野ではあるが、これまで長年培ってきた声の研究成果がこのような形で生かされたことは大きな喜びで

コメント [1]:

あった。

ホーソン縁の地マサチューセッツのコンコードへ出かけ、彼の住居と墓を訪問する機会を得た。ソファイアと結婚した1842年に、The Old Manse（旧牧師館）を新居とし、この家で長女ユーナが誕生する。この館で暮らした3年間に、名作と呼ばれるものを含めて数多くの短篇やエッセイを執筆した。この館を取り上げた作品“The Old Manse”もその中に含まれている。館およびそれに隣接している庭をこの眼で実際に見ることができたことは大きな喜びであった。また、彼が眠る Sleepy Hollow Cemetery（スリーピー・ホーロー墓地）を訪れることもできた。ここには、ホーソンと同時代のエマーソン、ソーローといった思想家の墓や教育者として著名なオルコット親子の墓もある。小生がこの墓地を訪れていたとき、当地の高校生たちが授業の一環でこの墓地を訪れ、教師の説明に耳を傾けていた。また、親子二人がソーローの墓をじっくりと眺めていた。19世紀前半に多くの足跡を残したこれらの作家、思想家、教育者たちは今も生きているのだということを改めて知る機会となった。

このたび、半年間の留学期間が与えられ、多くの成果を得ることができました。改めてここに関西学院関係者に心より感謝申し上げます。